

# 宮川のほとりから

2011年 1月



万所遺跡上空より宮川下流を望む（南から）

## ◇はじめに

平成16年9月28～29日にかけて南勢地方を襲った台風21号は、秋雨前線と重なり各地に1時間100ミリを越える集中豪雨をもたらしました。そのため大洪水が発生、宮川下流右岸地域とくに横輪川合流地点と中島・大倉地区に床上・床下浸水多数にのぼる甚大な被害をもたらしました。

国土交通省ではこの浸水被害に対して、悲惨な被害が起らないよう地域の安全・安心の確保を図る治水対策として「宮川床上浸水対策特別緊急事業」を策定し、平成18年度から堤防の築造や河道掘削を計画的に実施してきました。

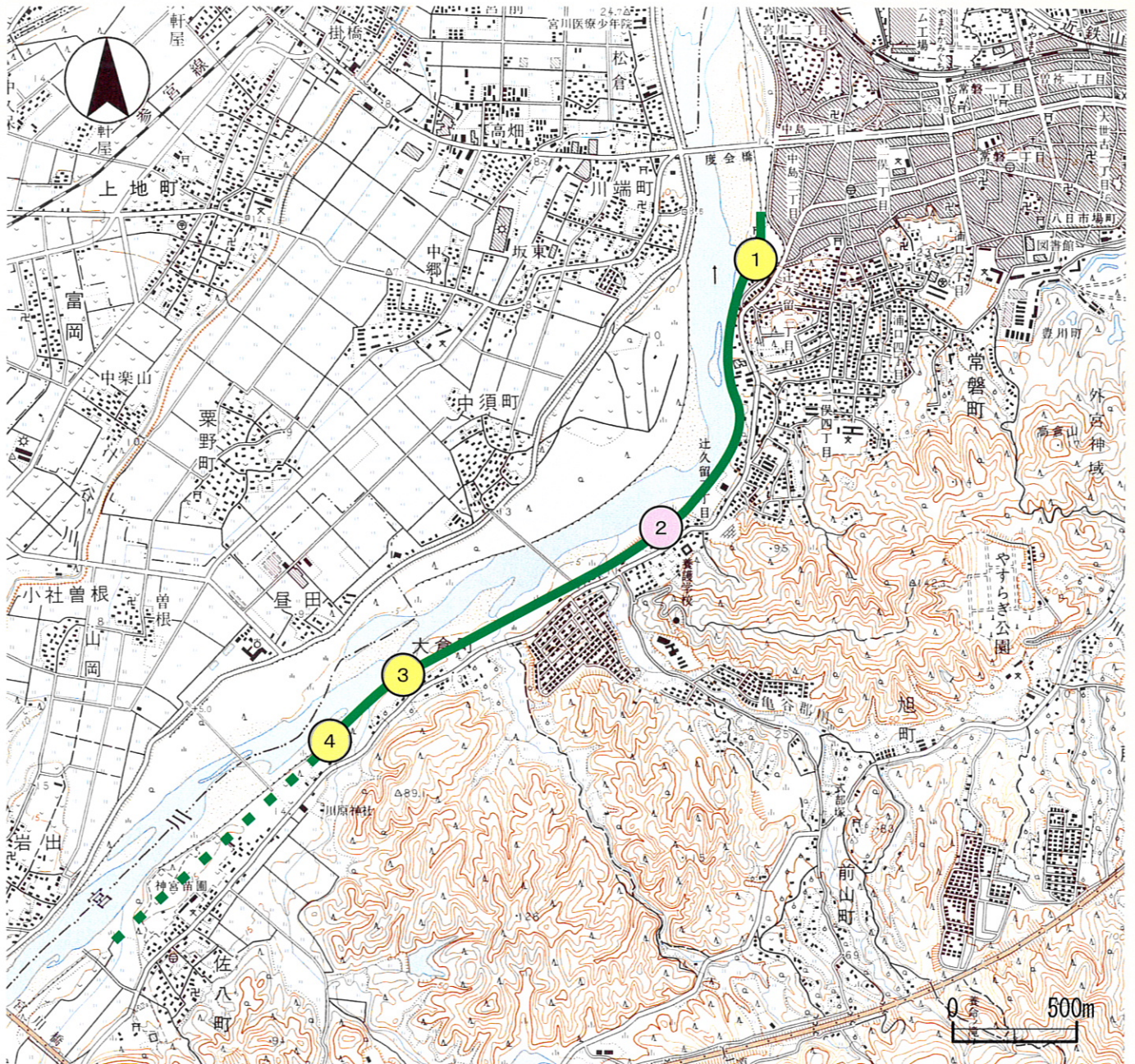
三重県教育委員会では、この事業計画地に4か所の埋蔵文化財（遺跡）が所在することから、工事によって破壊される埋蔵文化財の保護について協議を重ね、工事計

画に合わせて発掘調査を実施することとなり、順次対応をしてきました。

工事も終盤になって、最後に残った万所遺跡の一部で本格的な発掘調査が必要となったため、平成21・22年の2か年にわたって発掘調査が実施されました。その結果、この地域の歴史の一端が次々と明らかになりました。

この冊子は万所遺跡を中心とした発掘調査の成果を紹介するものです。宮川河畔でのいにしえ人の営みに思いをはせていただければ幸いです。

発掘調査の実施にあたりましては国土交通省三重河川国道事務所、同宮川出張所、地元自治会の皆様、伊勢市教育委員会など関係各位より多大のご理解とご援助をいただきました。厚くお礼申し上げます。



事業関連遺跡位置図（1：25,000 国土地理院『伊勢』に加筆）

No.	遺跡名	所在地	調査内容	調査面積(m <sup>2</sup> )	調査期間	概要
1	松井孫右衛門人柱堤	伊勢市中島町2丁目	工事立会	500	2011年度立会予定	
2	万所遺跡近接箇所	伊勢市辻久留3丁目	工事立会	5	2005/12/21	遺構・遺物は確認されなかった。
	万所遺跡最下流部	伊勢市辻久留3丁目	第1次調査	96	2007/7/18	時期不明土器片が微量出土したが、遺構は確認できなかったため、本発掘調査には至らず。
	万所遺跡（A・B区）	伊勢市辻久留3丁目	第1次調査	178	2009/4/27・28	遺構・遺物を検出。要本発掘調査の対象地に確定。
	万所遺跡（A・B区）	伊勢市辻久留3丁目	本発掘調査	1,200	2009/7/1～9/18	平安時代中期～鎌倉時代の掘立柱建物5棟のほか、古墳時代・鎌倉時代の溝や土坑などを検出、縄文～鎌倉時代の遺物が出土。
	万所遺跡（C区）	伊勢市辻久留3丁目	第1次調査	18	2009/11/16	遺構・遺物を検出。要本発掘調査の対象地に確定。
	万所遺跡（C-1区）	伊勢市辻久留3丁目	本発掘調査	706	2010/5/28～8/20	平安時代中期・鎌倉時代の掘立柱建物各1棟、中世墓5基などを検出。中世墓の1基からは完形の青磁碗1、山皿2、土師器小皿1が出土したほか、縄文早期初頭～鎌倉時代の遺物が出土。
	万所遺跡（C-2区）	伊勢市辻久留3丁目	本発掘調査	226	2010/8/30～10/12	土坑や柱穴等を検出。うち2基は中世墓か。縄文時代～室町時代の遺物が出土。
3	小田古遺跡	伊勢市佐八町小田古	第1次調査	30	2007/5/24	遺構・遺物は確認されず、本発掘調査に至らず。
4	下新田遺跡	伊勢市佐八町下新田	第1次調査	70	2007/5/15	遺構・遺物は確認されず、本発掘調査に至らず。
合計				4遺跡	3,029m <sup>2</sup>	

調査遺跡一覧表

# 万所遺跡 発掘調査の成果

万所遺跡は宮川下流右岸の河岸段丘上に立地し、弥生時代から室町時代の遺跡として知られていました。宮川の川岸近くの崖近くまで遺跡は広がりを見せ、東西約320m、南北約90mにおよぶ広大な遺跡です。行政上は伊勢市辻久留3丁目字万所ほかに属します。平成16年度に伊勢市教育委員会による試掘調査が行われていますが、今回はじめての本格的な発掘調査となりました。以下、調査年次を追って概要を紹介します。

## ◆平成17（2005）年度

万所遺跡の北側隣接地での工事にともない立会調査を行いました。遺構（人々の生活のあと）や遺物（人々の使った道具など）は見つからず、万所遺跡の範囲が及ばないことがわかりました。

## ◆平成19（2007）年度

万所遺跡の縁辺部にあたります。工事に先立ち第1次調査を行い、時期不明の土器片が微量出土しましたが、遺構は確認できず、本発掘調査にはいたりませんでした。

## ◆平成21（2009）年度

第1次調査の結果、2ヶ所に分かれた調査区のうちA地区では、溝や柱穴などの遺構と古代の土器片が出土しました。またB地区でも柱穴や土器片が出土したため、本発掘調査を実施しました。

### A地区

おもな遺構として、平安時代末期（約1,000年前）の掘立柱建物1棟、古墳時代（約1,700年前）以降の溝4条や土坑（大きな穴）などがあります。北東部を横断する溝1を埋めていた礫の中などから、釉薬をかけていない陶器が出土しました。山茶碗と呼ばれる鎌倉時代（約800年前）の日常雑器で、その特徴から愛知県の渥美地方で作られたもので、伊勢の地にも当時広く流通していました。また、調査区南西部からは約7000年前の縄文時代早期の土器も出土したほか、古墳時代前期（約1700年前）の台付甕の破片や、平安時代から鎌倉時代にかけて（約900年～800年前）の土師器甕や鍋、碗・皿、須恵器甕、灰釉陶器などが出土しました。

### B地区

L形の配置をとる平安時代中期（約1,100年前）の掘立柱建物2棟、鎌倉時代以降と考えられる掘立柱建物2

棟が確認されました。そのうち平安時代の掘立柱建物は、1.8mほどの等間隔で柱が並び（4本×3本）、棟方向を直角に違えており同時代の建物と考えられます。（4頁写真3・写真4、6頁平面図参照）

そのほか時期不明の焼土があります。（4頁写真2）宮川に注ぐ支流の亀谷郷川を望む斜面であることから、移動生活をしていた縄文人たちの焚き火であるかもしれません。

出土遺物としては、平安時代の土師器・須恵器や灰釉陶器のほか、製塩土器や土錘（網のおもり）、鎌倉時代の土師器（小皿・皿・鍋）、須恵器（甕）、陶器（山茶碗・山皿・鉢・甕）などがあります。

## ◆平成22（2010）年度

B地区の西に隣接します。第1次調査の結果、土坑や柱穴などの遺構が検出され、古代～中世の土器片も出土したため、本発掘調査を実施しました。

### C地区

平安時代中期および鎌倉時代と考えられる掘立柱建物各1棟のほか、柱列2条などを検出しました。掘立8は、東西方向（6.4m）に柱が4本、南北方向（3.8m）に柱が3本ある3間×2間の東西棟の建物です。（4頁写真5）

また注目される遺構として、平安時代末から鎌倉時代（約900年～800年前）にかけての墓（中世墓）が5基見つかりました。

墓12（5頁写真11）は、縦1.2m、横0.8mの楕円形の墓です。形状や規模、鉄釘が出土していないことから木棺を使わない埋葬形式（土坑墓）と考えられます。お供えの土器として、龍泉窯系の青磁碗（中国の南宋製）が1、陶器の小皿（山皿）2、土師器小皿1が完全な形で出土しました。このような完全な形の青磁碗を副葬した墓は非常に少なく、三重県内でも7例ほどしかありません。この墓に葬られた人はおそらくこの地域の有力者のひとりであったと考えられます。この墓に近接して木棺墓と考えられるものが2基（墓11・13）と、土坑墓と考えられるものが2基（墓10・14）あり、平安時代末から鎌倉時代には小さな墓域となっていたようです。

またこのほかにも中世墓と推定できる土坑が2～5基ほど確認されました。

万所遺跡



写真1 万所遺跡上空より上流を望む(北東から)



写真8 中世墓14の実測(C地区)



写真9 中世墓13 (C地区)



写真11 中世墓12 (C地区)



写真12 発掘風景 (A地区)



写真10 中世墓12出土遺物

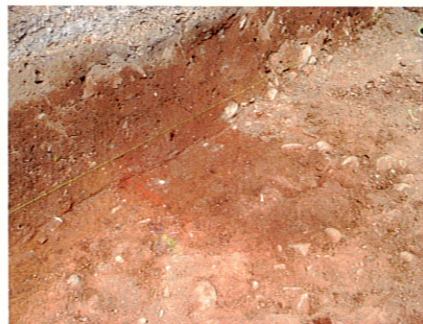


写真2 焼土7 (B地区)



写真3 掘立柱建物4 (B地区)

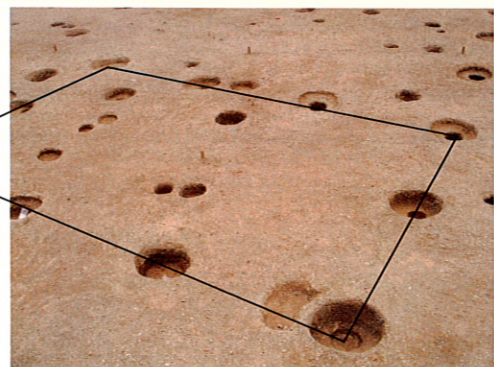


写真4 掘立柱建物3 (B地区)



写真5 掘立柱建物8 (C地区)

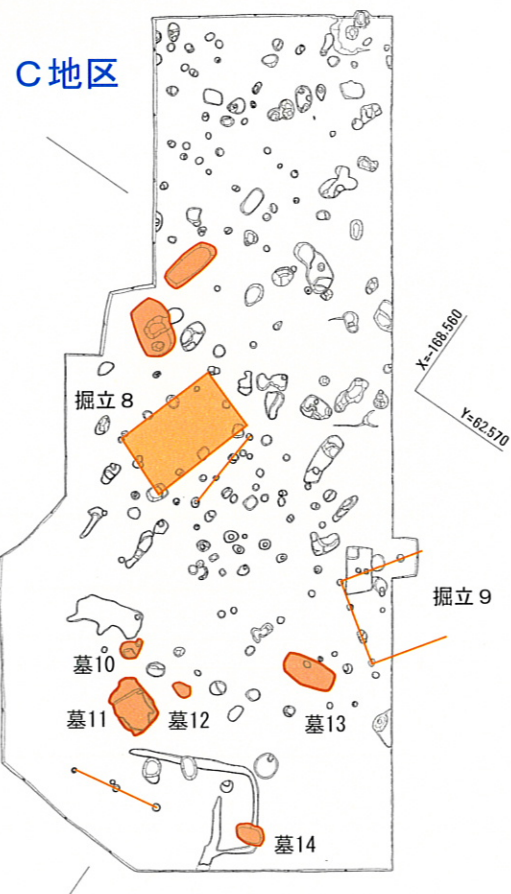
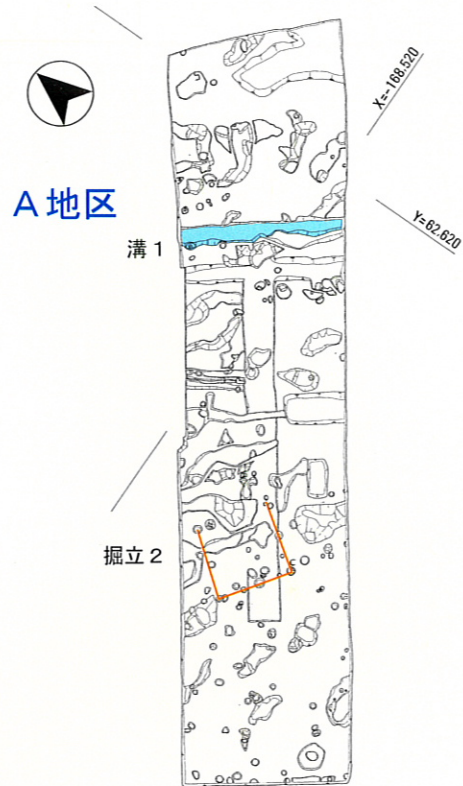
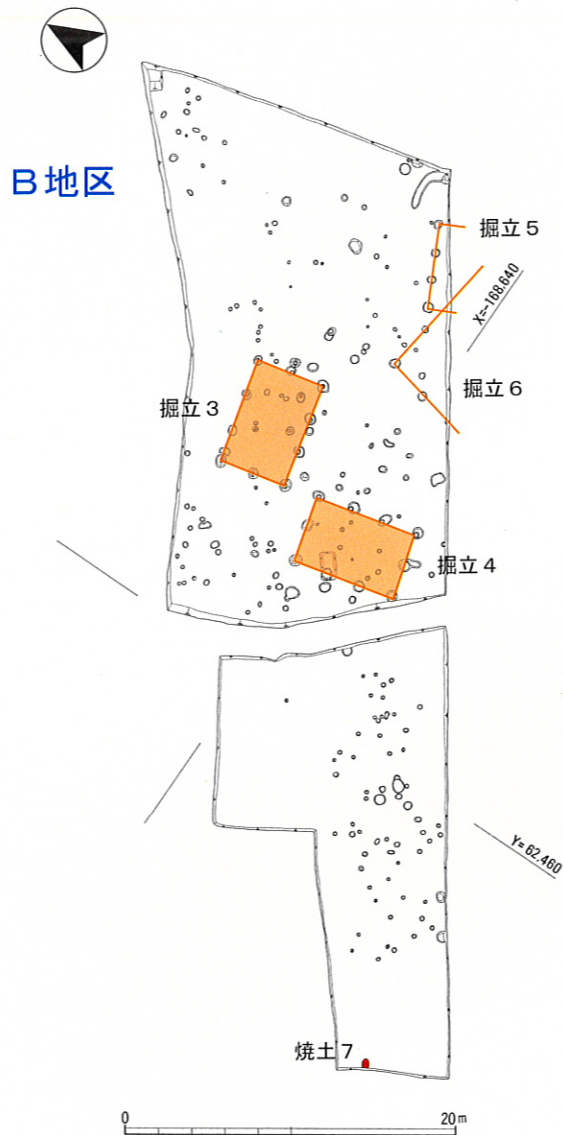


写真6 溝1 (A地区)



写真7 現地説明会 (C地区: H22年8月7日)





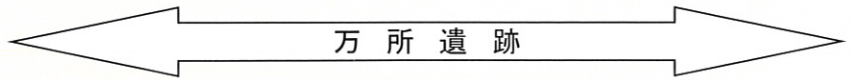
万所遺跡遺構平面図（1:400）※「掘立」は掘立柱建物

4次にわたる発掘調査によって、万所遺跡に暮らした人々の使った道具類（土器・石器・鉄器など）が多数出土し、当地の歴史を解明する上で重要な資料を得ることができました。中心となるのは集落として発展した平安時代中期から鎌倉時代前期の土器類です。

遺構は確認されませんでした。約1万年前～4,000年前ころの縄文土器なども見つかり、遠く原始の時代にもこの地で生活した人々の活動の一端もうかがえます。

さらに、1万数千年ほど遡る旧石器時代（氷河時代の終わり頃）と考えられるナイフ形石器の可能性もある石器が採集され、宮川とともに暮らしたいにしえ人の息吹が聞こえてきそうな発掘調査となりました。

# 万所遺跡の時代



旧石器

縄文

原始

弥生

古墳

645年  
大化の改新

奈良

710年  
平城京遷都

古代

平安

794年  
平安京遷都

鎌倉

1192年  
鎌倉幕府開く

中世

室町

1338年  
室町幕府開く

- 狩猟生活のキャンプ地の一つか
- ☆ 縄文土器(大鼻式)
- ☆ 礫器
- ☆ 縄文土器(山の神式)



縄文土器(約4,000年前:山の神式)



縄文土器(約1万年前:大鼻式)

- 稲作伝わる
- ☆ 弥生土器



礫器(縄文時代)



弥生土器(約2,200年前)

- 溝 1
- 万所古墳



- 掘立柱建物 3・4・8 土師器(平安時代)



土錘(平安時代)

- ☆ 灰釉陶器
- 墓13
- 墓12
- ☆ 青磁
- 掘立柱建物 2
- ☆ 土錘



墓12の出土遺物



青磁碗

- 掘立柱建物 5・6・9
- 墓10・11・14
- ☆ 山茶碗, 山皿

- ☆ 土師器・鍋



陶器碗・皿(山茶碗・山皿)



土師器・鍋

## ◇出土遺物について

平安時代から鎌倉時代のものには、素焼きの土器である土師器や5世紀に朝鮮半島から作り方の技術が伝わった須恵器（窯で焼いた硬質の土器）、陶器・磁器・鉄器などがあります。土師器には椀・杯・皿・小皿・鉢・甕・移動式カマド・土錘（網のおもり）・製塩土器などがあります。須恵器は甕、陶器には平安時代の灰釉陶器（灰汁を釉薬として掛けた陶器）椀がありますが、緑釉陶器（鉛を釉薬とし、緑色に発色した当時の貴重品）も1片出土しました。ほかに平安時代末期から鎌倉時代にかけて日常雑器として多量に生産された、俗に山茶椀・山皿と呼ばれる無釉陶器の椀や皿・捏ね鉢や常滑産の甕などがあります。

このほか、磁器として青磁および白磁が少量出土しました。特に注目されるのが、中世墓12から完形で出土した龍泉窯系の青磁椀（平安時代末から鎌倉時代初めころ）です。中国南宋時代に現在の杭州の地に、一大産地が形成された龍泉窯で焼かれ、はるばる日本まで運ばれてきたものです。なお、中世墓12からは、この青磁椀のほかに、山皿2枚と土師器小皿1枚が出土しました。また、中世墓11からは木の棺に使われた鉄釘も出土しました。

遺構に伴わない遺物には縄文時代早期初頭（約1万年

## ◇まとめにかえて

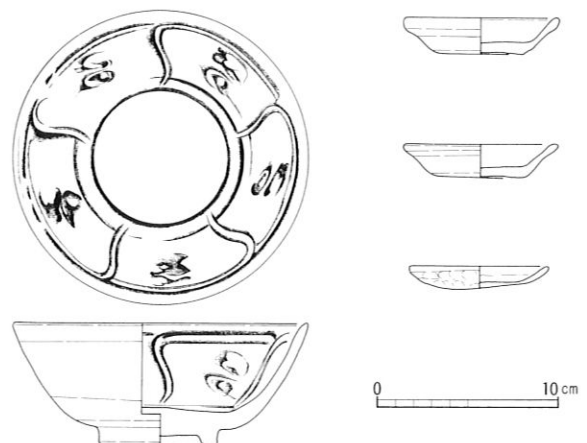
今回の万所遺跡の発掘調査は宮川の築堤に伴って実施されたことから、川岸にきわめて近い場所が調査対象地となりました。その結果、万所遺跡の中心部からはずれた周辺部を発掘調査したことになります。おそらく遺跡の中心はもっと内陸寄りにあるのでしょう。

川に近くて水害の危険がある所にもかかわらず、縄文時代の各時期の遺物が点々と出土したことから、縄文時代の1万数千年を通して、この川のほとりが、狩りや採集で暮らしを立てた縄文人が行き来する場所であったことを私たちに教えてくれます。

また、古代から中世にかけての建物跡が発見されたことも大きな成果でした。地元の方にお聞きすると、昔この地に関所があったということです。いつの時代のことかはわかりませんが、ある時期になんらかの役所的な施設があったことを暗示するものかもしれません。平安時代中期に始まる当遺跡の古代集落は、おりしも神宮の御

前）の大鼻式、早期末から前期初頭ころ（約7～6千年前）の繊維を混ぜ込んで焼いた土器や条痕と呼ばれるスジが表面に付けられた土器、中期末（約4千年前）の山の神式土器や後期前半ころ（約3千5百年前）の磨消縄文と呼ばれる土器も出土しました。石器は少量ですが早期に属すると思われる礫器や、木の実などをすり潰すための磨石・石錐などが出土しましたが石鏃（石製の弓矢の矢じり）は見つかりませんでした。

その他、弥生土器も前期末ないしは中期初頭ころ（約2千年前）の甕が1点だけですが出土しています。



中世墓12出土 青磁椀ほか実測図（1：4）

菌や御厨が急増する時期でもあります。出土する土師器は斎宮跡出土のものと同様に、精製で明るい橙色をしたものであり、神宮や斎宮との関連も考えられます。万所遺跡はこのような歴史的背景から成立した、神宮となんらかの関係をもつ集落であった可能性があります。今後、さらに詳しい検討を加えて万所遺跡の性格や特質を明らかにしていきたいと考えています。

事業名：宮川床上浸水対策特別緊急事業にともなう発掘調査  
委託：国土交通省中部地方整備局三重河川国道事務所  
受託：三重県教育委員会  
調査：三重県埋蔵文化財センター  
〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503  
TEL. 0596-52-1732 FAX. 0596-52-7035  
<http://www.pref.mie.jp/MAIBUN/HP/>  
2011年1月 編集・発行 三重県埋蔵文化財センター